

私は昨年11月26日、子供夫婦の誘いによって、御正忌報恩講にお参りする機会を得ました。

十数年ぶりのお参りで、このご縁に会えたことを心より喜んでいる次第です。

御影堂が御修復に入っているのです、阿弥陀堂でのお勤めでした。たくさんの参詣者で午前のお日中、午後のお速夜はいずれも満堂であり、堂内に入りきれなかった方は、白州での仮設テントの下でテレビの中継による参詣でありましたが、その席もほとんど埋め尽くされたような状況でした。

2011年の宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌法要の団体参拝がおもいやられます。参詣者の皆さんは、宗祖親鸞聖人のお示し下さった「自信教人信」の教えを胸に抱かれてのお参りであります。

このように、遠近より老若男女を問わず上山され、合掌の姿の中に信心をいただくことは誠に尊いことです。

高僧和讃には「信心すなわち一心なり 一心すなわち金剛心 金剛心は菩提心 この心すなわち他力なり」とうたわれています。

私たちは罪悪深重、煩惱具足の凡夫である身でありながら、堅固(けんご)の信心をいただくとき、これは菩提心に通じると言ってくださいます。

蓮如上人は「信をとれ、信をとれ」とご一代記の中で繰り返し、繰り返し言われています。まさしく、私たちが堅固の信心をいただくとき、往生の大道を歩むことができるのです。